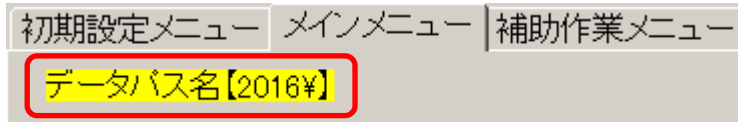


ネットワークによる運用

1. はじめに

“らくらく会計”では、例えば2016年度会計の場合、会計ソフトのフォルダの中に“2016”というデータフォルダがあります。

データベース名は次のように“相対パス名”となっています。



この方式の利点は、別のパソコンに会計ソフトを移動させたい場合、“らくらく会計”のフォルダを“コピー&貼り付け”を行うだけで会計データも会計ソフトも移動できます。通常は、このような“相対パス名”で運用してください。

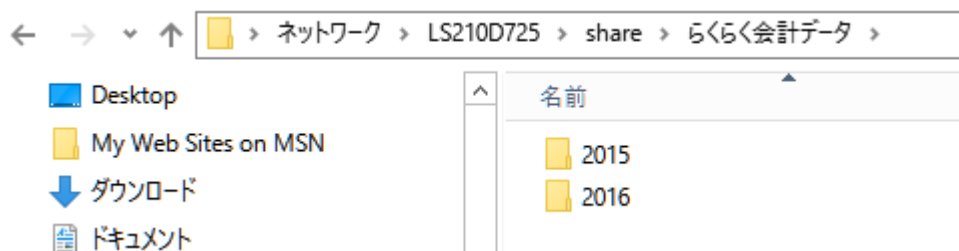
ただし、ユーザー様の自己管理の下で次のような“ネットワーク”での運用もできます。

2. データ共有による運用

最も簡単なネットワークでの運用形態は、1台のパソコン（ホスト）に一台または複数の子パソコン（ゲスト）を繋いで運用する方法があります。

また、リンクステーションや windows サーバーパソコンを用意して、複数のパソコン（クライアント）で運用する方法もあります。

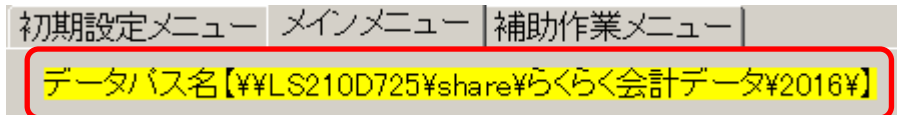
その場合の手順は、ネットワークを構築したのち、ゲストパソコンまたはクライアントパソコンから次の例のようにネットワーク上のデータフォルダが見えることを確認してください。



次に会計ソフトを起動して、データベース名の設定画面で、ネットワーク上のデータベース名を指定してください。



メインメニュー戻ると、データパス名は、次の例のようになります。



このような運用では次のようなことができます。

- ✦ 仕訳伝票の伝票番号が“部門別連番”である場合、入力部門が同一でなければ振替仕訳入力は同時にできません。
- ✦ 各種の出力（総勘定元帳、試算表、決算書、内訳表など）もどれそのパソコンでできます。
- ✦ 勘定科目設定や新年度更新処理は、一台のパソコンのみで行ってください。また、新年度更新処理を行った後に、それぞれのゲストまたはクライアントパソコンではデータパス名を変更してください。（自動では変わりません）

【常陽な注意事項】

- ✦ ホストコンピュータまたはサーバーに“らくらく会計”のフォルダを置いて、このフォルダの中の実行プログラムをゲストまたはクライアントのパソコンから起動すると、データパス名は“相対パス名”でも会計は開きます。
この場合は、ゲストパソコンまたはクライアントパソコンに“らくらく会計”を入れなくても運用できますが、同時起動するとエラーが発生して最悪の場合はデータテーブルが破損する場合がありますので、注意して運用してください。

3. 運用上の一般的な注意点

- ✦ ホストまたはサーバーパソコンからはフルアクセスが出来ないとエラーが生じます。
- ✦ ネットワークの環境は、運用者の責任の下に維持管理してください。
ネットワークの環境については、電話やリモートメンテナンスによる当社でのアドバイスや不具合対応は出来ないことをご了承ください。
- ✦ ネットワークによる運用は、単独運用に比べて格段にリスクが大きいことを前提に、データのバックアップコピーは頻繁に行ってください。
- ✦ ネットワーク運用の基本ルールですが、ホストパソコンまたはサーバーパソコンを最初に起動して、最後に電源を落としてください。特に運用途中にホストパソコンやサーバーパソコンがダウンすると、データ破損を起こします。
- ✦ なお、大規模な法人におかれましては、他社で実現されているクライアント／サーバー型の会計ソフトやクラウド型の会計ソフトをご検討ください。